



## 1 就職内定 嬉しい報告

デジタル技術の進展が目覚ましく、5GやDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入が進み、ITに精通した人材のニーズが高まっています。本校への求人も多く、就職内定者が続々と増えています。ここでは、株式会社『ネクシモ』に内定した石川 遥さん（基本情報技術者試験合格、佐竹高卒）に、お聞きしました。



内定を喜ぶ石川 遥さん

Q1 これからのIT活用と抱負？

A1 「ここで学んだことを活かし、信頼される技術者として活躍できるように頑張りたいです。」

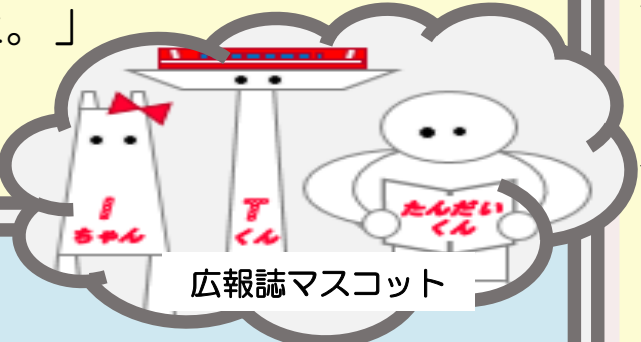


Q2 本校での学びと成果は？

A2 「ITの知識が殆どありませんでしたが、集中して教えて頂き、基本情報技術者試験に一回で合格できました。」

Q3 あなたの趣味は？

A3 「ゲームや、歌を歌うことが好きです。」



広報誌マスコット

## 2 実践演習で学び深める



中間発表を行う学生

本校では、IT企業の第一線で活躍された指導陣が、実践的な演習を実施しています。セキュリティーコース2年生の「システム開発実習」では、5人一組のグループに分かれ、「自動車販売管理システム」（要件定義、開発計画、外部設計、内部設計等）に取り組み、中間発表会が行われました。発表を終えた芦沢くん（勝田工高卒）は「与えられた課題に対して、一人一人が主体的に取り組まないと解決できない実習であり、とても勉強になります」と話していました。



システム開発資料

## 3 じっくり学び資格取得

基本情報技術者とは？ 「情報処理の促進に関する法律第29条第1項」に基づいて経済産業大臣が行う国家試験「情報処理技術者試験」の区分の一つです。対象者像として「高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身に付けた者」というように試験要綱には記載されています。



基本情報技術者試験に取り組む1年生

本校の新入生は、秋までに「基本情報技術者試験」を合格することを目指しています。授業では、テクノロジー、マネジメント、ストラテジーの3分野を、じっくり学んでいます。谷田部浩一郎さん（石岡一高卒）は「授業で学んだ事をしっかり復習し合格したい」と話していました。

## 4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

＜選んだ記事＞

茨城新聞（2022年4月22日）

### 「DX改革」県が加速

◇要約

●茨城県では本年度DXの取り組みを県庁内で加速させている。DXイノベーション推進でプロジェクト事業を実施し、デジタルサービス導入による人手不足解消など、新サービス開発の挑戦を後押ししている。

◇感想

●海野璃衣さん（土浦三高卒）

コロナウイルスにより、困っている人が多い中、茨城県で行われているDX活用はとても素晴らしいと思いました。これからの時代、コロナが終息することはとても難しいと思うので、DX改革に期待したいです。

●増山すみれさん（水戸商高卒）

DXというものをこの記事で初めて知った。また、それを県が取り組みを加速させようとしていることに驚きました。これらが普及し今後どうなっていくのか楽しみと共に、IT短大にいる私もこれに貢献できるように頑張りたい。

●五味千怜さん（麻生高卒）

デジタル化が進んでいる今の時代に、人材育成など県が考えて行うことが良いと思いました。私もサービス開発に携わることができるIT技術者になりたいと思いました。

●今川葉菜さん（石岡商高卒）

こうしたDXを利用した行政改革を茨城県が他の県に先駆けて行っていることは県民として誇らしい。DX改革が進みいろいろなサービスを利用したり職業の幅が広がればいいなと思います。

